

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Apple Junior 相模原駅前教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 20日 ～ 2026年 2月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18 (回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2026年 1月 20日 ～ 2026年 2月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14 (回答者数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「活動報告に写真を添付してくれるが、いつも近くに職員の様子が ある」 「子ども同士のやりとりも細かく観察してくださって対応して いただいています。」 職員が子どもたちの様子をしっかりと観察及び把握している。	活動中は職員が子どもたちの近くで見守り、一人ひとりの様子 や気持ちの変化を丁寧に観察している。 子ども同士の関わりやコミュニケーションの様子を把握し、必 要に応じて仲立ちや声かけを行っている。 安全面の確保だけでなく、成功体験や困りごとにも着目し、適 切な支援につなげている。	HUGの活動報告において、写真だけでなく支援のねらいや具 体的な個別支援の内容をより詳しく記載する。 子ども同士の関わりの中で見られた成長や変化についても、 保護者へ積極的に発信する。 活動場面ごとの記録を充実させ、支援内容の見える化を進め る。
2	「送迎時に今日の様子や心配事の情報交換をしてくれている。 また希望すれば面談も行えて、より密に指導計画と実際の成長 ペースの擦り合わせをしてくれている。」 親御様とのコミュニケーションを大切にしている。	送迎時の情報交換を大切にし、その日の様子や気になることを 保護者へ丁寧に伝えていく。 ご家庭での様子や保護者の悩み・要望を伺い、支援に反映でき るよう努めている。 定期的な面談や希望に応じた個別相談の機会を設け、支援方針 や成長の様子を共有している。	送迎時だけでは伝えきれない成長の様子や支援内容につい て、HUGや面談等を活用してより分かりやすく共有する。 保護者が相談しやすい環境づくりを継続し、気軽に意見や要 望を伝えられる関係性の構築に努める。
3	「スモールステップで取り組む支援内容が示されています。」 それぞれの特性に合った支援を行っている。	お子さま一人ひとりの特性や発達段階を把握し、個々に応じた 支援目標を設定している。 達成しやすいスモールステップを意識し、成功体験を積み重ね られるよう支援している。 定期的に支援内容や達成状況を確認し、お子さまの成長に合わ せて目標の見直しを行っている。	お子さまの成長や変化に応じて、より効果的な目標設定や支 援方法の検討を継続する。 支援目標の意図や達成状況について、保護者へ分かりやすく 共有する機会を充実させる。 職員間で支援方法や成功事例を共有し、支援の質の向上を図 る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「行けば楽しかったと帰って来ますが、行くまでの拒否が強い です。。。」 通所しやすい環境作りを進めていく。	活動自体は楽しめているものの、来所前の見通しの立てにくさ や環境の変化に対する不安から、通所への抵抗感が生じている 可能性がある。 お子さまによっては、家庭から事業所への気持ちの切り替えに 時間を要する場合がある。	活動内容や楽しいイベントを事前に伝えるなど、通所への 見通しを持ちやすくする。 来所時の不安や緊張に寄り添い、お子さまのペースに合わせ た受け入れを行う。 保護者との情報共有を密にし、拒否が強くなる要因や効果的 な対応方法を一緒に検討する。
2	「どんな支援をしているか具体的にはわからないことが多い。 hugでこんな個別支援をしたことを毎回書いてくれるとありが たい。」 活動報告に加え、詳しい支援内容をさらに共有していく。	HUGで活動内容はお伝えしているが、個別支援の内容や支援 の意図まで十分に伝わっていない場合がある。 保護者が事業所での支援内容やお子さまの成長過程を具体的に 把握しにくいことがある。 限られた記録の中では、実際に行った支援のすべてを伝えきれ ていない場合がある。	活動報告に加え、実施した個別支援の内容や支援のねらいを 具体的に記載する。 お子さまの成長や変化が伝わるエピソードを積極的に共有す る。 写真だけでなく、支援内容やお子さまの反応についても分か りやすく記録する。
3	「経過記録は書かれているが、職員が全員でその記録内容を 読んで振り返る機会は少ない。個々に読んで把握している状況 のため、周知度にばらつきがあると感じる。」 職員同士でばらつきが起きないように対策していく。	経過記録は作成・共有されているものの、職員全員で内容を確 認し振り返る機会が十分に確保できていない。 個々で記録を確認することが中心となっており、理解度や認識 に差が生じる可能性がある。 支援に関する情報共有の方法によっては、重要な情報の周知に ばらつきが生じる場合がある。	定期的にケース会議やミーティングを実施し、経過記録の内 容を職員間で共有する機会を設ける。 支援上の重要事項や留意点について、職員全員が共通認識を 持てるよう情報共有の仕組みを強化する。 記録の確認状況を把握し、必要な情報が確実に周知される体 制づくりを進める。